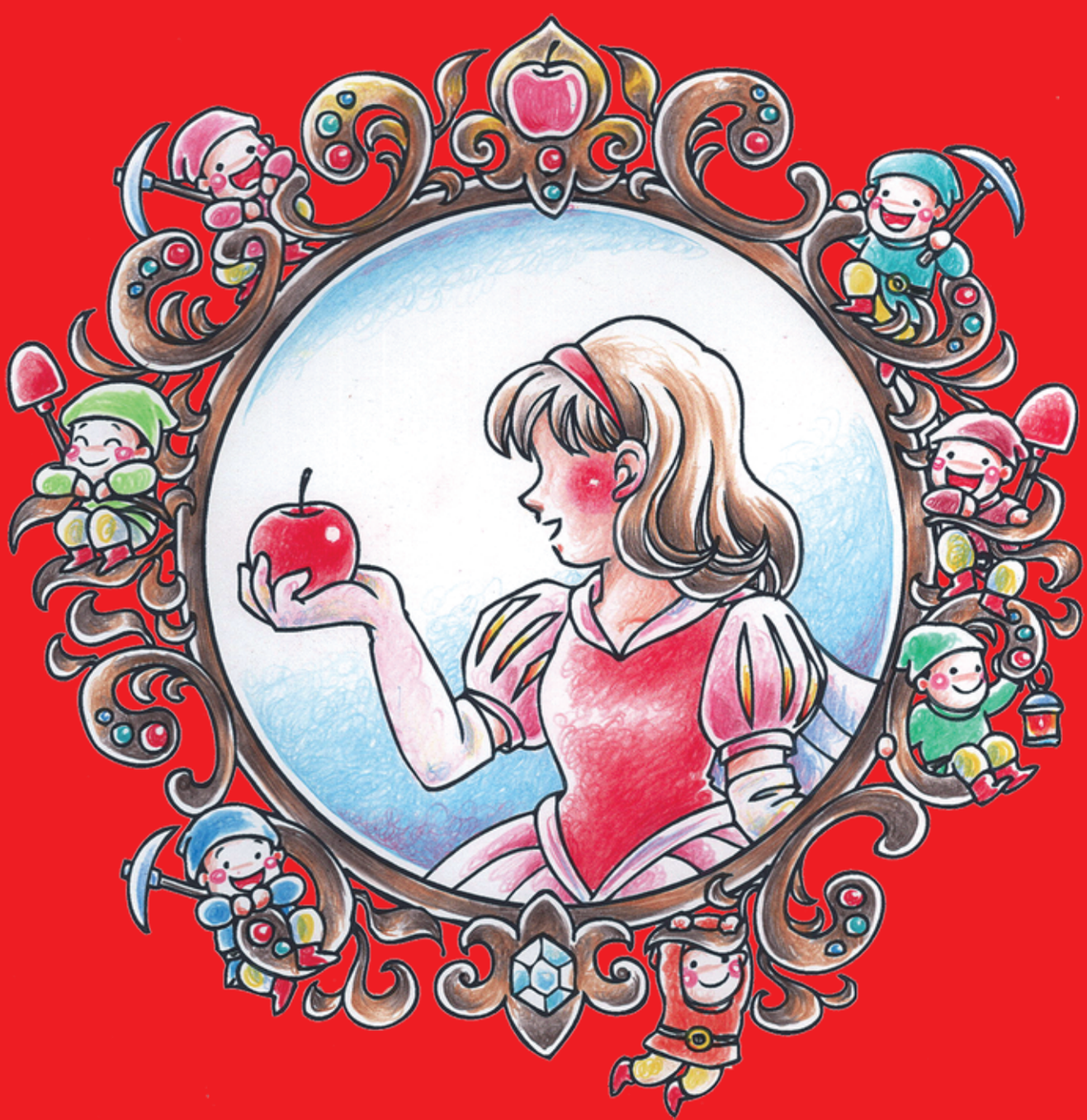
グリム童話の世界



1、グリム童話とは



グリム兄弟
ヴィルヘルム・グリム／ヤーコプ・グリム

『グリム童話』の原題は『子供と家庭の童話集』(Kinder-und-Housmärchen) といい、グリム兄弟が人から集め、編集した昔話 200 話と子供の精霊伝説 10 話からなっています。初版は 1812 年に出版され、全集だけでも 7 回改訂されました (1857 年)。

ヤーコプ (1785-1863) とヴィルヘルム (1786-1859) のグリム兄弟は、民間に語り伝えられてきた話を書き留め、童話集を編みました。

今日、『グリム童話集』はドイツ語で書かれた本としては最も多くの言語に翻訳され、世界中で読み継がれています。日本では明治 20 年に初めて紹介されてから、翻訳や絵本化が繰り返され、グリムの昔話を知らない人はほとんどいないでしょう。

当時のドイツは小国に分裂しており混乱の状態にありました。兄弟はドイツ統一を目指し、ドイツ人のアイデンティティを求めて自国の古代や中世の文学、とりわけ民衆文学に目を向けて民話や昔話伝説などを収集したのです。

今回のパネルに使用している童話のタイトルは『グリム童話全集』(西村書店 日本グリム協会会長 橋本孝著) から引用しています。



『グリム童話全集』 西村書店
日本グリム協会会長 橋本孝著

2、グリム童話とイソップ童話

グリム童話とイソップ童話って何が違うの？

イソップ童話

① 古代ギリシャ人のイソップが**創作**。
② 動物や自然現象を人間として描いている。
③ 道徳や教訓を説く話が多い。



ウサギとカメ

（教訓）
能力があっても過信は禁物、コツコツ努力することが大切です。



アリとキリギリス

（教訓）
遊んでいると後で困りますよ。堅実な生活が一番です。



北風と太陽

（教訓）
力づくでは物事は解決しません。優しさが人の心を動かすのです。

グリム童話

① ドイツのグリム兄弟が 19 世紀に学術目的でドイツ各地に残るゲルマンの**民話や言い伝えを収集**したものです（最終版で 200 話）。
② 創作ではありません。
③ だから、残酷なシーンや公序良俗に反する話がたくさんありました。とても子どもに読み聞かせなどできないものでした。
④ しかし、子どもに伝えたい教訓もたくさん含まれていました。
⑤ そこで、グリム兄弟は、子ども向けに内容をマイルドに何度も書き直しました。第７版（1857 年）が現在読まれているグリム童話です。

ブレーメンの町の音楽隊



オオカミと７匹の子ヤギ



赤ずきん



白雪姫



3、グリム兄弟の生きた時代

ヤーコプ・グリム（1785-1863）とヴィルヘルム・グリム (1786-1859) のグリム兄弟が生きた時代は、３つに区分することができます。正に激動の時代を生きたと言えます。

①フランス革命の勃発、

②ナポレオンの台頭、統治、失脚、

③グリム童話の出版とドイツ統一への収束

詳しく述べると次のとおりです。

① フランス革命の勃発

1789 年７月、パリの民衆がバスティーユ牢獄を襲撃し、フランス革命の発端となった事件が発生しました。フランスでは、1792 年４月に革命戦争が発生、同年 10 月からロペスピエールの恐怖政治による統治、1793 年１月のルイ 16 世の処刑などにより、これまでの旧体制（アンシャン＝レジーム体制）から市民による革命により急激な政治体制の変革（共和制）を成し遂げました。

特に、ルイ 16 世のギロチンにかけられての処刑は、グリム兄弟にとって生涯消えることのない記憶として残りました。



「聖ドニ門の周りのジュニー革命」

② ナポレオンの台頭・統治・失脚

フランス革命によりフランスでは政治的な変革が行われていた当時、ドイツでは 200 以上の領邦国家（ラント）に分立していました。各ラントは裁判権や貨幣発行権を有しており、国際的にも国家主権が認められ、事実上、国家として存在していました。

フランス革命のドイツへの飛び火をおそれ、各ラントが自衛手段を講じますが、1803 年にはナポレオンにより領邦国家の数は約 40 に再編成され、1805 年には、事実上ドイツはナポレオンの統治下に置かれることになりました。



「サン＝ベルナール峠を越えるボナパルト」
ダヴィッド

1812 年、ナポレオンはモスクワ遠征で退却し、ナポレオンの統治は終了します。

ヨーロッパ各地で戦争や政治的な抗争が発生する中、グリム兄弟は在学するマールブルク大学のサヴィニー教授の女婿のクレメンス・ブレンターノ(Clemens Brentano）らが編纂していたロマン派的な歌謡集『少年の魔法の角笛』（1805 年-08 年）の編纂に協力し、本格的にメルヘンや伝説の改訂・編集の作業を始めるようになりました。

そして、1812 年、グリム兄弟は『子供と家庭の童話集』第 1 版を発行します。グリム童話の誕生です。

③グリム童話の出版とドイツ統一への収束

グリム兄弟は、その後、1857 年の『子供と家庭の童話集』第 7 版まで出版し、全部で 200 の童話を発表しました。

1814 年と 1815 年にナポレオン統治終了後のヨーロッパの秩序再建と領土分割を議題としたウィーン会議が開かれました。なお、この会議にヤーコプが公使館書記官として出席しています。しかし、ドイツでは保守反動勢力と進歩派との間で激しい戦いが続き、領邦国家は依然として存在し、小国分立の状態は続いていました。

1830 年、グリム兄弟は、ゲッティンゲン大学に招聘されますが、1837 年、エルンスト・アウグスト（Ernst August Ⅰ）がゲッティンゲン大学のあるハノーファーの王になると、1833 年に制定されたばかりの憲法を無効にすると宣言したため、グリム兄弟はこれに抗議し、即座に他の教授とともに解雇されました。これは、「ゲッティンゲンの七教授事件」と呼ばれています。1841 年、兄弟はともにベルリン大学教授に就任し、さらに晩年は、『ドイツ語辞典』の編纂に精力を注ぎました（完成は、123 年後の 1961 年）。

ドイツ全土が一つの国家に統合されたのは、ヤーコプ・グリムの死後８年が経過した 1871 年でした。



フンボルト大学（1945 年以前はベルリン大学）

4、グリム兄弟の生活した場所



① ハーナウから

1785 年、ヤーコプ・グリムはハーナウで生まれた。翌年の 1786 年に弟のヴィルヘルムが生まれ、二人はまるで双子のように育つ。兄が 6 歳、弟が 5 歳のときに一家は東へ 20km ほど離れたシュタイナウへ引っ越した。なだらかな丘が続く牧歌的な環境で幼年時代を過ごし、雄大な自然のなかで二人の感性が磨かれていく。

② シュタイナウへ

1791 年、ヤーコプ・グリムが 6 歳の時、父親はシュタイナウの裁判官（ご領地管理人）として勤務することになり、一家は裁判所の近くに住むことになる。父フィリップ・グリムは 1796 年肺炎のため亡くなる。ヤーコプが 11 歳の頃です。その後　一家は官舎を去ることになり、ブリュケントアの小さな家に移り住む。

③ カッセルへ

1798 年二人はカッセルの伯母に引き取られ、カッセルのフリードリヒス・ギムナジウムに通います。この学校は 1778 年に設立され、彼らが在学していた頃は、ラテン語やギリシャ語、歴史、哲学などを学ぶことができ、グリム兄弟は、ここで古典文学に触れ、後の研究活動の基礎を築きました。このフルダ川沿いにあるこの町を、兄弟は終生、心の故郷として慈しみました。

④ マールブルク

やがて青年となったグリム兄弟は、そろってマールブルク大学の法学部へ入学します。そこで師事したザヴィニー教授から、法律と同じように昔話も人々の間で生まれ受け継がれてきたことを教えられました。古い民話や伝説に興味を持った二人は、昔話を知っている人を訪ねてまわり、聞き取った話を少しずつまとめる活動を始めます。弟のヴィルヘルムは 1806 年までマールブルクに住み、ヤーコプは一旦カッセルに戻りました。

⑤ カッセルとパリで

ヤーコプはザヴィニー教授の手伝いのために 8 カ月間パリに滞在しました。この頃、カッセルはフランス軍に占領されており、フランス語が得意だったヤーコプはヴィルヘルムスヘーエ城で宮廷司書官を任せられます。一方で 1812 年、兄弟がコツコツと聞き取りをしていた民話が『子どもと家庭の童話集』（いわゆる「グリム童話」）という形でまとめられ、世に送り出されました。

⑥ ゲッティンゲン

ドイツ語学研究を続けていたヤーコプとヴィルヘルムは、1829 年にゲッティンゲン大学から教授として招かれ、ハノーファー王国へ移ります。大学の講義は法律や神話、言語、文学の歴史など多岐にわたり、さまざまな書物を出版。順調に生活を送っていましたが、1837 年に国王の憲法違反に対して教授たち７人で抗議文を提出したため、７人の教授全員が追放となりました。

⑦ ベルリン

ゲッティンゲンを追われた兄弟は一時カッセルへ戻りますが、すぐにベルリンから声がかかりました。プロイセン王国のベルリン大学が二人を教授として迎えたのです。二人はそろって王室学士院会員となり、ベルリンで安定した日々を過ごしました。1854 年に刊行された『ドイツ語辞典』第１巻のほか、数多くの学術論文や評論集を刊行。そして弟ヴィルヘルムは 1859 年に、兄ヤーコプは 1863 年に世を去りました。
現在、グリム兄弟はベルリンの旧聖マティウス教会墓地に眠っています。

グリム兄弟が散歩を楽しんだ現在の風景



カッセル、フルダ川沿い



ベルリン、ティアガルテン

まとめ

「グリム兄弟にとっての心の故郷カッセル」

グリム兄弟はヘッセン国で生きヘッセン国で死ぬ、このことを望んでいたにもかかわらず、彼らはハノーファー王国へ移ることになります。ヤーコプにとって、そのゲッティンゲンでの生活は、その土地に馴染んで暮らしていたわけではありませんでした。彼にとって気持ちを安らかにしてくれたのはカッセルであったのです。

異郷の地ゲッティンゲンの暮らしは彼を波立たせ、一刻も安らぎを与えることはありませんでした。常にカッセルへの郷愁の念がつきまとい、その町カッセルは「あたかも緑野に芽吹いた」人生の花を咲かせた町であった、と述べています。彼ら兄弟の郷土への愛着は、彼らにあっては、郷土以外のどこにも幸福な土地はない、と信じるほどに強く根付いていました。ベルリンへ移住するきっかけは、かつてゲッティンゲンへの移住のきっかけがそうであったように、彼らの許へ外部からもたらされたのです。

「最終居住地ベルリン」

友人への手紙に、ベルリンでの生活はカッセルの役目を果たしてくれるとはもとより思っておりませんが、しかし、私の住んでいるティアガルテンはやはり実にすばらしいと書いています。私たちの家の通りはティアガルテンの端に繋がっていて、田舎の別荘のような趣がありました。通りの片方は庭園に、もう片方はオークの木々に囲まれています。ティアガルテンをグリム兄弟は毎日散歩しました。その公園は、兄弟にとって、彼らがカッセルのベレヴュー通りに住んでいた頃の緑野を思い起こさせ、その代用の役目を果たしてくれました。仮にティアガルテンがなく、そこが田舎風の静けさに包まれていなければ兄弟が、あれほど容易にベルリンでの生活に住み慣れるということはなかったでしょう。

5、取材源と物語の題材になる話の聞き取り

グリム童話は、兄のヤーコプ・グリムと弟のヴィルヘルム・グリムが、周囲の人から聞き取りを行い書き取った民話や、書物から民話を採集して、子供への読み聞かせのために編集し、出版したもので、グリム兄弟の創作によるものではありません。このような昔から言い伝えられた話を本にした物語などは「口承文学」と言われています。日本では、代表的なものとして、岩手県遠野地方の民話収集家で小説家の佐々木喜善から語られた遠野地方の民話を柳田國男が筆記・編纂した『遠野物語』（1910 年出版）があります。

（1）グリム童話の取材源と聞き取り

グリム兄弟は、知人のクレメンス・ブレンターノらが 1808 年に出版した『少年の魔法の角笛』（第２巻）（第３巻）に掲載した民話の収集に協力したのを機に、民話の採集を行うようになりました。そして、86 話をまとめて 1812 年に『子供と家庭の童話集』を出版しました。

グリム兄弟は、童話集を 1812 年の初版から 1857 年の第７版までを表のとおり出版しています。

再版以降について、グリム兄弟は不完全な箇所は補足し、口承の中で改ざんされたと思われる箇所は取り除きました。

グリム童話集の出版年

版数	出版年	新たに出版された童話の数（累計）
初版	1812 年	86 話、更に 1815 年に 70 話
再版	1819 年	5 話（161 話）
3 版	1837 年	7 話（168 話）
4 版	1840 年	9 話（177 話）
5 版	1843 年	17 話（194 話）
6 版	1850 年	6 話（200 話）
7 版	1857 年	0（200 話）

（2）民話の語り手たち



ヘンゼルとグレーテル

『グリム童話集』には、50 人以上の語り手の民話が掲載されていますが主な協力者は次のとおりです。

① ヴィルト（WILD）家

グリム兄弟のカッセルの家の隣で「太陽薬局」を経営していました。

（主な童話）カエルの王さま、または鉄のハインリヒ・
ヘンゼルとグレーテル

② ハッセンプフルーク（HASSENPFLUG）家

ヴィルト家からの紹介。後にグリム兄弟の妹のシャルロッテが一族の者と結婚しました。

（主な童話）イバラ姫・オオカミと 7 匹の子ヤギ

③ ハクストハウゼン（HAXTHAUSEN）家

ヴィルヘルムが病気治療でハレに行った際に、かねてから知り合いであったハクストハウゼン男爵に会って、一族から民話の提供を受けました。

（主な童話）灰かぶり（シンデレラ）・ホレおばさん

④ ドロテア・フィーマン（DROTHEA VIEHMANN)

グリム兄弟が住んでいたカッセルに野菜を売りに来ていました。37 話が『グリム童話集』に採用されました。

（主な童話）ガチョウ番の娘・鉄の暖炉

＜特筆すべき事項＞

①『グリム童話集』のために提供された話の大部分は上流富裕層の若い女性からの話が多くありました。特に、初期の民話には、女性が主人公の話が多くありました。

②ハッセンプフルーク家やドロテア・フィーマンは、ユグノー（Hugue-not）という迫害を受けてフランスからドイツに逃れてきた人々の末裔で、語った内容がフランスやイタリアに伝承されている物語と類似しており、そのことはグリム兄弟も認識していました。

（3）書き換えとその傾向

1812 年に出版された『子供と家庭の童話集』初版第 1 巻の序文には、口承や書物からの民話を可能な限り純粋に取り上げたとしました。初版本については、「話の選び方も話の調子も子供向きではない」、「あまりにも飾り気のない語り口である」と批判されました。再版以降において加筆修正を担った弟のヴィルヘルムは、妊娠や近親相姦に係る性的な記述や子供を虐待する記述などの暴力的な描写を削除しました。グリム童話集は、1857 年の第 7 版まで加筆、修正、削除がされました。



ラプンツェル

6、受け入れと影響・ドイツ編

ドイツ人 29 名にアンケートしました。

年齢の内訳は 20〜29 歳 15 名、30〜39 歳 ６名、40〜49 歳１名、50〜59 歳 ３名、60〜69 歳４名

名称だけを聞く質問に対し、自分がグリム童話から受けた影響を文章で伝えてくることに、日常的に討論するドイツ人の答え方を感じました。ですので、それもここで紹介します。（＊）

質問１、幼少の頃に読み聞かせでグリム童話を聞きましたか？

はい 24 名、 いいえ３名

質問２、それは誰が読んでくれましたか？

母 12 名・両親 12 名・ 祖父母９名・ 祖母３名・兄弟姉妹３名・幼稚園の先生２名・保育園（kita） １名

質問３、それは何のお話でしたか？

灰かぶり（シンデレラ） ３名・ヘンゼルとグレーテル２名・オオカミと７匹の子ヤギ２名・（以下１名）カエルの王さま、あるいは鉄のハインリヒ・ホレおばさん・ルンペルシュティルツヒェン・ラプンツェル・白雪姫・赤ずきん

＊ 残酷なこと以外はすべての物語を読んでもらいました。
＊ それぞれが伝える教訓は異なり、良いものもあれば悪いものもありました。しかし、総じて言えるのは、敬意、思いやり、そして優しさです。
＊ いろいろなお話…友情、愛、行動、音楽的な動物、魔女、お姫様、王女、動物、教え、神話上の生き物、
＊ さまざまなトピック…信頼、服従、嫉妬、正義、人間の善良さ、英雄的行為など。
＊ 毎晩違うお話を読んでもらい、それはいつも違うお話だった。
＊ お話には悪役と英雄が登場することが多く、女性が救出されることも少なくありません。他にも、問題がいかに解決されるか、あるいは狡猾さによって問題が引き起こされるかを描いた物語もありました。

質問４、印象に残っているグリム童話はなんですか？

ヘンゼルとグレーテル８名・灰かぶり（シンデレラ）６名・オオカミと７匹の子ヤギ５名・白雪姫３名・ホレおばさん３名・ブレーメンの町の音楽隊２名・あまいおかゆ２名・（以下１名）ルンペルシュティルツヒェン・赤ずきん・ラプンツェル・イバラ姫・金のガチョウ・ディズニー映画・テーブルよ、食事のしたくを、金を吐きだすロバ、こん棒よ、袋から出ろ

質問５、お家にグリム童話の絵本はありましたか？

はい 24 名、 いいえ３名
（絵本はなかったですが物語集はありました１名）

質問６、その絵本は何という題名でしたか？

ラプンツェル２名・ヘンゼルとグレーテル２名・（以下１名）白雪姫・灰かぶり（シンデレラ）・ブレーメンの町の音楽隊・赤ずきん・星の銀貨・イバラ姫

絵本集の題名は
『グリム童話集』・グリム童話集『言葉のない童話』・
『365 日楽しめる童話集』・『グリム童話絵本』、
『最も美しい子供向けの古典』・『おとぎ話コレクション』・
『グリム兄弟の最も美しい童話』・『グリム兄弟の童話』

質問７、自分で読書したグリム童話はありますか？

はい 18 名、いいえ３名、覚えていない１名

＊勇敢なちびの仕立て屋・カエルの王さま、あるいは鉄のハインリヒ・ホレおばさん、赤ずきん
＊私は原典版のいくつかを読みました。
＊全部です。これらのおとぎ話はドイツ文学の古典だと考えているので、自宅に特別版を持っています。

質問８、現在も印象に残るグリム童話は何ですか？

灰かぶり（シンデレラ） ５名・ラプンツェル４名・赤ずきん２名・ヘンゼルとグレーテル３名・ブレーメンの町の音楽隊２名・イバラ姫２名・カエルの王さま、あるいは鉄のハインリヒ２名・金のガチョウ２名・（以下１名）ホラおばさん・おどってすりきれた靴・星の銀貨・漁師とその女房の話・白雪姫・こわがることを習いに出かけた男の話

質問９、子供への読み聞かせでグリムのお話を積極的に読みましたか？

はい５名、　子供はいないです 24 名

質問10、自分の子供達に読み聞かせをしたグリム童話は何ですか？

オオカミと７匹の子ヤギ２名・赤ずきん２名・灰かぶり（シンデレラ）２名・（以下１名）ヘンゼルとグレーテル・ラプンツェル・おどってすりきれた靴・星の銀貨・白雪姫・イバラ姫・ブレーメンの町の音楽隊・ヨリンデとヨリンゲル・長靴をはいたオス猫

＊ 基本的にグリム童話の本に出てくる童話すべて。（49 歳）
＊ グリム兄弟の童話集からたくさん読みました。（61 歳）
＊ 私たちの分厚いおとぎ話の本に載っているものすべてを読みました。（57 歳）

まとめ

ドイツ人からのグリム童話に関するアンケートをまとめてみて、グリム童話への関心の高さと、人生観に与える影響力を感じました。

ドイツでは幼少期に触れたグリム童話の数が大変多く、その理由としては、童話集としての絵本を読み聞かせるのが主流であったためのようです。日本の場合、絵本は一つ一つのお話として、選ぶ絵本に偏りが出る傾向があることに気付きました。

ドイツ人にとってグリム童話は、子供の目線で理解できる哲学的要素として、教訓を伝える一つの手段として読み聞かせ、それが大人になってからも心に残っているようです。良いものもあれば悪いものもあります。信頼、服従、嫉妬、正義、人間の善良さ、英雄的行為などを通じて、敬意、思いやり、そして優しさを伝えるものとして、グリム童話はドイツ人の心の中に今でも生きているといえるでしょう。

7、受け入れと影響・日本編

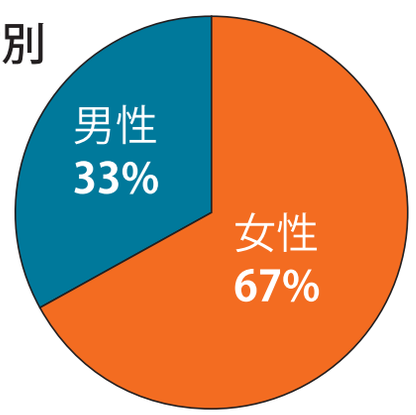
本調査は、日本国内でグリム童話に関する受容意識について、アンケートを通じて把握したものです。

調査概要

実施時期：2025 年 6 月
対象者：全国の 30 歳～ 79 歳、115 名
回答方式：インターネットアンケート
サンプル属性：性別・年齢・地域のバランスを一定考慮
分析方法：回答率（パーセンテージ）のみを使用

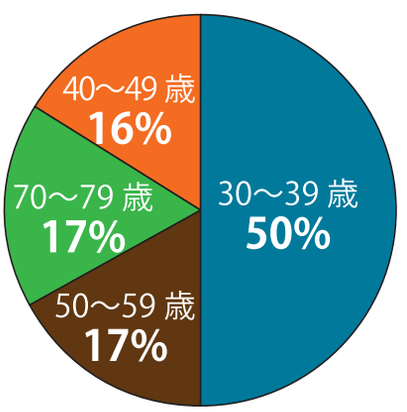
回答者の属性

性別



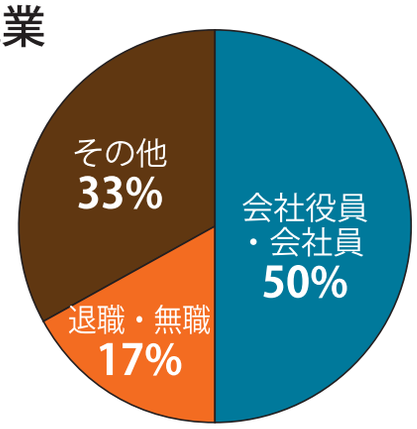
男性 33%　女性 67%

年齢



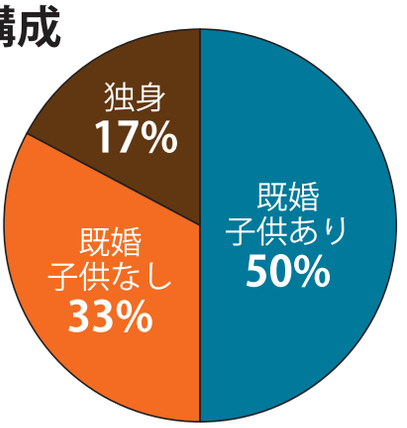
30～39 歳 50%　40～49 歳 16%
50～59 歳 17%　70～79 歳 17%

職業



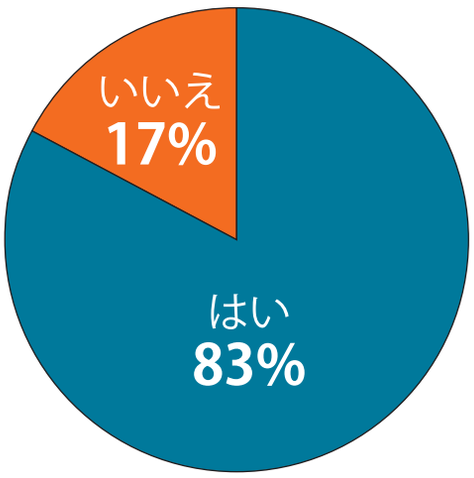
会社役員・会社員 50%
退職・無職 17%
その他 33%

家族構成



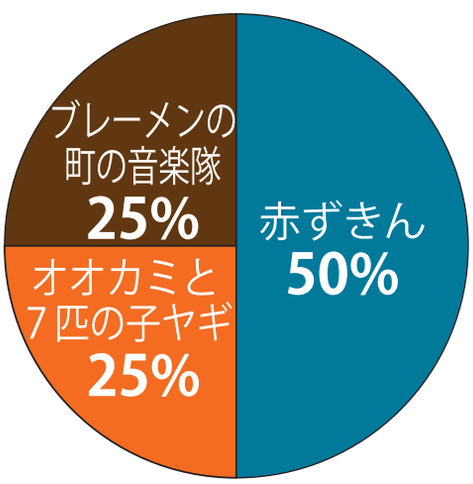
既婚子供あり 50%
既婚子供なし 33%
独身 17%

幼少の頃に読み聞かせでグリム童話を聞いたことを覚えていますか？



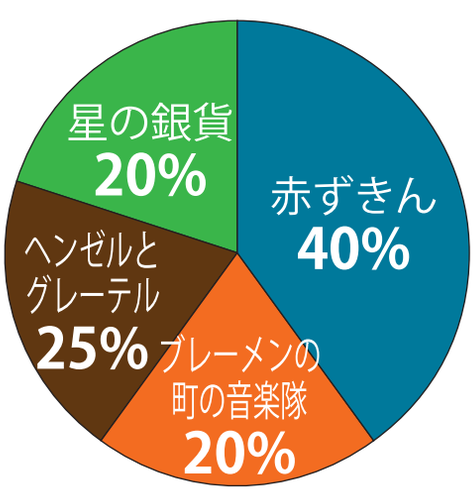
はい 83%　いいえ 17%

グリム童話を聞いた方にお聞きします。それは何のお話でしたか？（複数回答可）



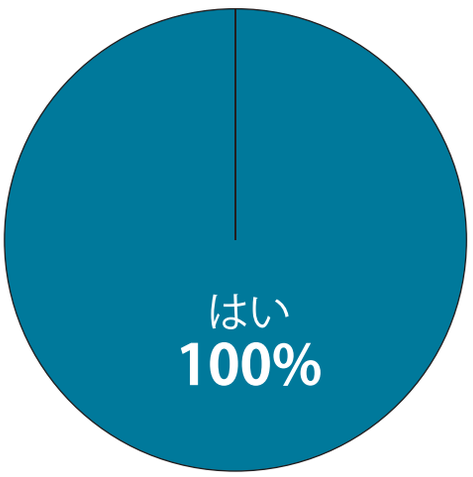
赤ずきん	50%
オオカミと７匹の子ヤギ	25%
ブレーメンの町の音楽隊	25%

印象に残っているグリム童話を教えてください。（複数回答可）



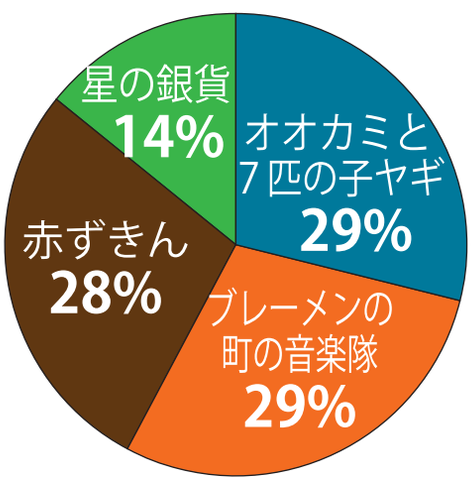
赤ずきん	40%
ブレーメンの町の音楽隊	25%
ヘンゼルとグレーテル	25%
星の銀貨	25%

お家にグリム童話の絵本はありましたか？



■はい 100%　■いいえ 0%

お家にグリム童話の絵本があった方にお聞きします。それは何という題名でしたか？（複数回答可）

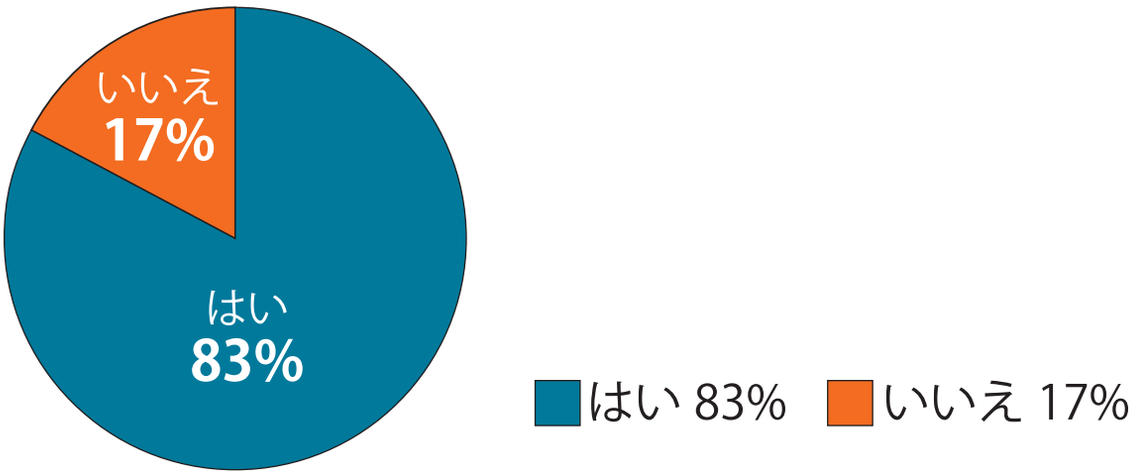


■オオカミと７匹の子ヤギ　29%
■ブレーメンの町の音楽隊　29%
■赤ずきん　28%
■星の銀貨　14%

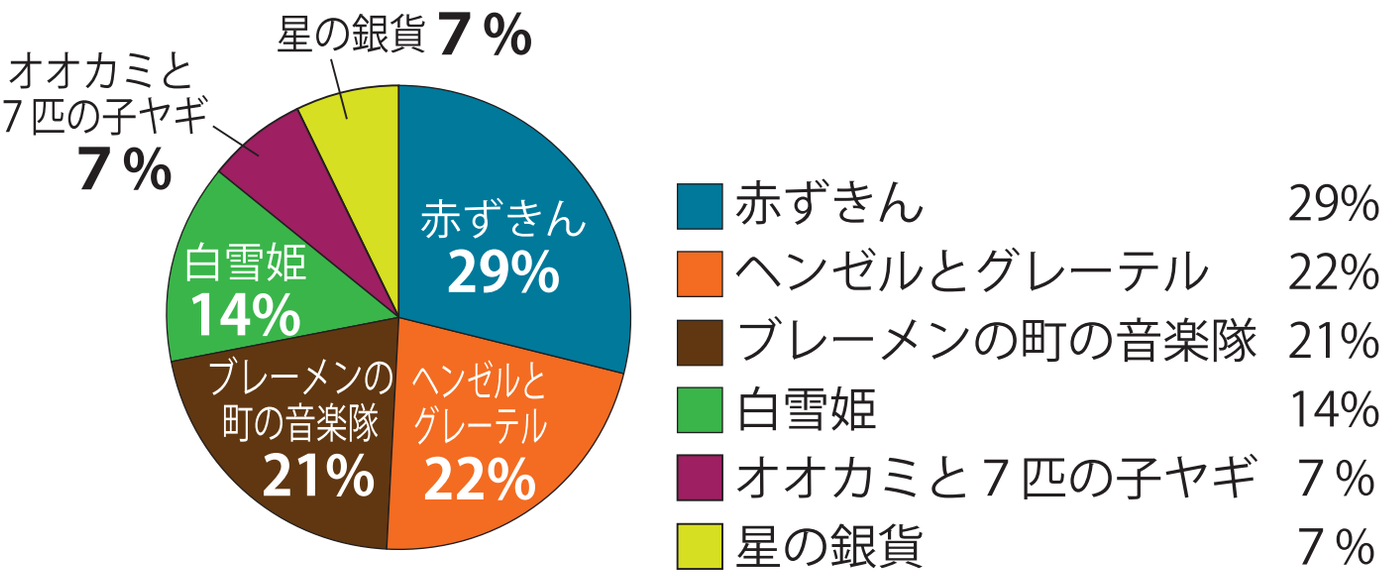


アンケート協力者より提供
「灰かぶり（シンデレラ）」
小学６年生作

ご自身で読書したグリム童話はありますか？



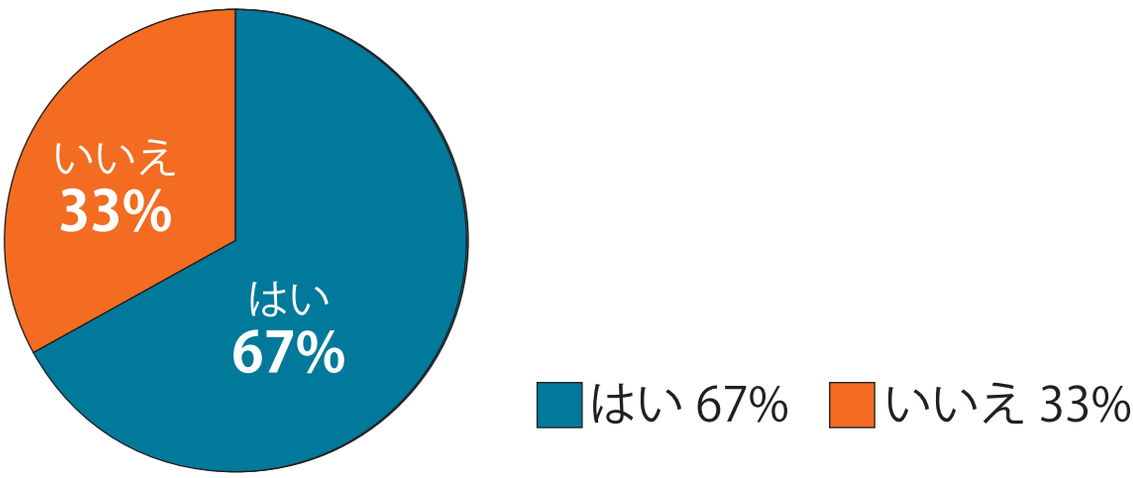
現在も印象に残るグリム童話は何ですか？（複数回答可）



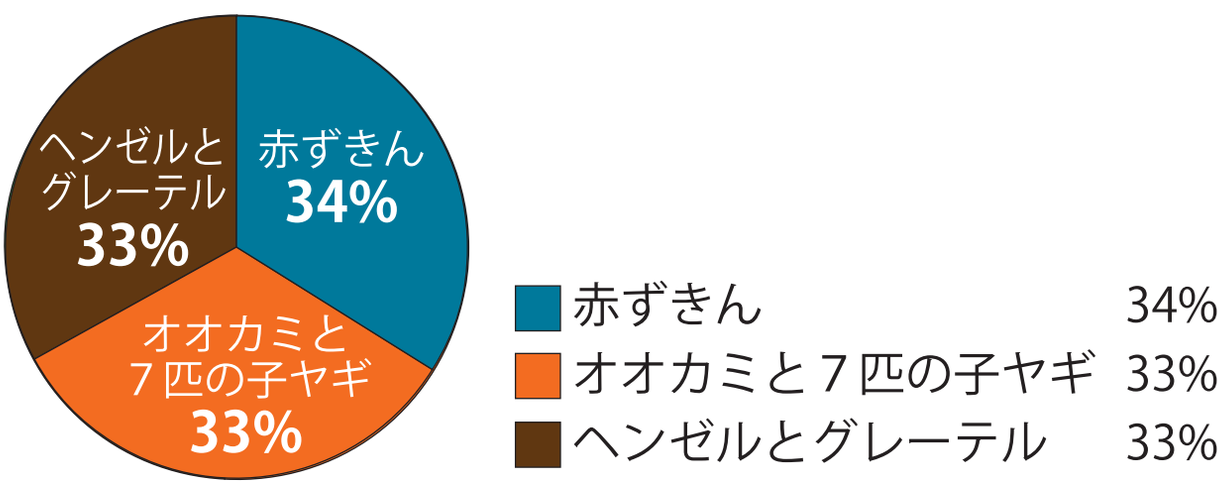


アンケート協力者より提供
「ヘンゼルとグレーテル」
小学１年生作

お子さんへの読み聞かせでグリムのお話を積極的に読みましたか？



お子さんに読み聞かせをするグリム童話は何を推薦しますか？



まとめ・考察

日本国内でのグリム童話の認知・浸透はきわめて高く、アンケート回答者すべてに何らかの形で接触経験がありました。

読書経験や人気作品に多少の違いが見られたものの、「心に残っている童話」としての地位は普遍的であると考えられます。

8、ヤーコプ・グリムを訪ねた３名の日本人

文久元年（1862 年）７月、ちょんまげ姿の日本人がヤーコプ・グリムを訪問していた。文久遣欧使節団の内の有志３名である。これは明治維新を遡ること６年ほど前、幕府派遣の使節団でフランス、イギリス、オランダ、プロイセン、ポルトガルそしてロシアを訪問。当時締結されていた修好通商条約の開港開市延期交渉とロシアとの樺太国境画定交渉を目的としたものであった。



文久遣欧使節団
右から２人目が福沢諭吉

グリム側の資料から、ヤーコプとオランダ語で話をしていた３名が誰であったかはハッキリしていない。しかし一行の中でオランダ語を理解したのは４名の通詞と他３名の合計７名しかいなかった。常に行動を共にし、比較的自由に行動することが可能であったことなどを考慮すると、雇われ通詞の福沢諭吉、箕作秋坪（みつくり しゅうへい）、松木弘安の３名が挙がってくる。

当時既に民話収集家として『グリム童話』を発行し、言語学者としても『ドイツ語辞典』の編纂において著名なヤーコプ・グリムと日本の要人たちの会話が、明治維新以降の日本に大きな影響を与えたことは想像に難くない。



ナポレオン３世に謁見する使節団



ロンドン万博を見学する使節団

9、グリム童話の紹介

1．カエルの王さま、または鉄のハインリヒ
2．猫とネズミのとも暮らし
3．マリアの子ども
4．こわがることを習いに出かけた男の話
5．オオカミと７匹の子ヤギ
6．忠実なヨハネス
7．うまい取り引き
8．きみょうな旅芸人
9．12 人の兄弟
10．ろくでなし
11．兄と妹
12．ラプンツェル
13．森の中の３人のこびと
14．３人の糸つむぎ女
15．ヘンゼルとグレーテル
16．３枚のヘビの葉
17．白いヘビ
18．ワラと炭とソラマメ
19．漁師とその女房の話
20．勇敢なちびの仕立て屋
20．灰かぶり
22．なぞ
23．小ネズミと小鳥と焼きソーセージの話
24．ホレおばさん
25．７羽のカラス
26．赤ずきん
27．ブレーメンの町の音楽隊
28．歌う骨
29．金の毛が３本ある悪魔
30．シラミとノミ
31．手なし娘
32．りこうなハンス
33．３種類のことば
34．かしこいエルゼ
35．天国の仕立て屋
36．テーブルよ、食事のしたくを、金を吐きだすロバ、こん棒よ、袋から出ろ
37．親指小僧
38．奥さまギツネの婚礼
39．家にすむこびとたち
40．盗賊のお婿さん
41．コルベスさん
42．名づけ親さん
43．トゥルーデばあさん
44．死神の名づけ親
45．親指小僧の修行の旅
46．フィッチャーの鳥
47．ネズの木の話
48．老犬ズルタン
49．６羽の白鳥
50．イバラ姫
51．みつけ鳥
52．つぐみひげの王さま
53．白雪姫
54．背嚢と帽子と角笛
55．ルンペルシュティルツフェン
56．恋人ローラント
57．金の鳥
58．犬とスズメ
59．フリーダーとカーターリースヒェン
60．２人の兄弟
61．まずしい農夫
62．ミツバチの女王
63．３枚の羽
64．金のガチョウ
65．千枚皮につつまれた姫
66．野ウサギのお嫁さん
67．12 人の狩人
68．大どろぼうとその親方
69．ヨリンデとヨリンゲル
70．３人の幸運児
71．６人男、天下をのし歩く
72．オオカミと人間
73．オオカミとキツネ
74．キツネに名づけ親をたのんだオオカミのおかみさん
75．キツネと猫
76．ナデシコ
77．かしこいグレーテル
78．年よりのおじいさんと孫
79．木の精
80．メンドリが死んだお話
81．気楽な男
82．ばくち打ちのハンス
83．幸せなハンス
84．ハンスの嫁とり
85．黄金子どもたち
86．キツネとガチョウ
87．貧乏人と金持ち
88．歌い、はねるヒバリ
89．ガチョウ番の娘
90．若い大男
91．土の中のこびと
92．黄金の山の王さま
93．ワタリガラス
94．かしこい農夫の娘
95．ヒルデプラントじいさん
96．３羽の小鳥
97．命の水
98．なんでも知っている博士
99．ガラスビンの中のおばけ
100．悪魔のすすだらけの兄弟ぶん
101．クマの毛皮を着た男
102．かきねの王さまミソササザイとクマ
103．あまいおかゆ
104．かしこい人たち
105．ウンケのむかし話
106．かわいそうな粉屋の若者と子猫
107．２人の旅職人
108．ハンスうちのハリネズミ
109．小さな死に装束
110．イバラの中のユダヤ人
111．腕ききの狩人
112．天国のから竿
113．２人の王さまの子どもたち
114．かしこいちびの仕立て屋の話
115．お天道さまがあばきだす
116．青い明かり
117．わがままな子ども
118．３人の見習い軍医
119．７人のシュヴァーベン人たち
120．３人の見習い職人
121．こわいもの知らずの王子
122．キャベツロバ
123．森の中の老婆
124．３人の兄弟
125．悪魔とそのおばあさん
126．真心フェレナントと真心なしフェレナント
127．鉄の暖炉
128．なまけ者の糸つむぎ女
129．腕ききの４人兄弟
130．１つ目、２つ目、３つ目
131．きれいなカトリネルエとピフ・パフ・ポルトリー
132．キツネと馬
133．おどってすりきれた靴
134．６人の家来
135．白い花嫁と黒い花嫁
136．鉄のハンス
137．３人の黒い王女
138．クノイストとその３人の息子
139．ブラーケルの娘
140．奉公人
141．子ヒツジと小さな魚
142．ジメリの山
143．旅に出る
144．ロバ王子
145．恩知らずの息子
146．カブ
147．火に焼かれて若がえったこがらな男
148．神さまのけものと悪魔のけもの
149．オンドリの梁
150．物ごいのおばあさん
151．３人のものぐさ
151a．12 人のものぐさ下男
152．ヒツジ飼いの男の子
153．星の銀貨
154．くすねたヘラー銅貨
155．嫁選び
156．投げ捨てられた亜麻糸
157．親スズメと４羽の子スズメ
158．のらくら者の国のむかし話
159．ディートマルシェのほら話
160．なぞなぞ話
161．白雪と紅ばら
162．かしこい下男
163．ガラスの棺
164．ものぐさハインツ
165．グライフ鳥
166．力もちのハンス
167．天国の貧乏な農夫
168．やせっぽちのリーゼ
169．森の家
170．苦楽をわかつ
171．かきねの王さま（ミソササイ）
172．カレイ
173．サンカノゴイとヤツガシラ
174．フクロウ
175．月
176．寿命
177．死神の使いたち
178．プフリーム親方
179．泉のほとりのガチョウ番の女
180．イブのまちまちな子どもたち
181．池にすむ水の精
182．こびとの贈り物
183．大男と仕立て屋
184．くぎ
185．墓の中のかわいそうな男の子
186．ほんとうの花嫁
187．野ウサギとハリネズミ
188．つむと杼と針
189．農夫と悪魔
190．食卓の上のパンくず
191．ミニウサギ
192．どろぼう名人
193．太鼓打ち
194．麦の穂
195．土まんじゅう
196．リンクランクじいさん
197．水晶玉
198．マレーン姫
199．水牛革の長靴
200．金のカギ

出典
『グリム童話全集』橋本 孝
西村書店

ブレーメンの町の音楽隊

あるところに年老いたロバがいました。飼い主が働けなくなったロバを手放そうかと考えているのを知り、ロバは逃げ出します。ロバはブレーメンという町を目指し、楽隊に雇ってもらおうと考えたのです。途中で出会ったイヌ・ネコ・オンドリも同じ境遇だったので、ロバは「一緒にブレーメンに行こう」と誘いました。

夕方、森の中で家をみつけると、泥棒たちがごちそうを食べています。ロバとイヌとネコとオンドリが一斉になくと、おばけだと思ってこわくなった泥棒たちは逃げ出しました。そして、ロバたちはそのごちそうを食べました。

夜中になってまた泥棒が家に入りました。すると、ネコが泥棒の顔を引っかき、イヌが足にかみつき、ロバがうしろ足で蹴り上げ、オンドリが大声でなきました。おどろいた泥棒は、急いで逃げていきました。

ロバとイヌとネコとオンドリはこの家を気に入り、ブレーメンには行かず、みんなでずっと暮らしました。



オオカミと７匹の子ヤギ

あるところに、お母さんヤギと７匹の子ヤギが暮らしていました。ある日、お母さんヤギは「誰が来ても、決してドアをあけてはいけませんよ」と注意して家を出ました。

すると、オオカミがお母さんヤギの声の真似をしてやってきましたが、足が真っ黒だったので子ヤギたちはドアをあけませんでした。オオカミはパン屋のご主人を脅し、粉で足を白くして、また子ヤギのいる家に行きました。

すると、お母さんヤギの手だと思った子ヤギはよろこんでドアをあけてしまいます。子ヤギたちはおどろいて、テーブルの下やベッド、戸棚や台所にかくれましたが、オオカミはみつけて子ヤギたちを丸のみしてしまいました。ただ、末っ子の子ヤギ１匹だけは柱時計の中にかくれて、オオカミにみつかりませんでした。おなかいっぱいになったオオカミはそのまま眠ってしまいました。

しばらくして、お母さんヤギが帰ってくると、無事だった末っ子ヤギから話をきき、驚きました。そしてお母さんヤギは、眠っているオオカミのおなかを切って、おなかの中から６匹のヤギを助け出しました。



赤ずきん

むかしむかし、あるところに、赤ずきんちゃんと呼ばれる女の子がいました。ある日、赤ずきんちゃんは病気のおばあさんの家へ、ブドウ酒とケーキを届けるために森の中へと向かいました。そこで赤ずきんちゃんが出会ったのは、悪いオオカミです。

赤ずきんちゃんが花に気をうばわれて寄り道をしているすきに、オオカミは先回りをしておばあさんをのみこんでしまいました。そして、オオカミはおばあさんの真似をして赤ずきんちゃんをだまします。

「どうしてそんなに大きなお口をしているの？」

「おまえを食べるためさ」

オオカミは赤ずきんちゃんものみこんでしまい、ベッドに横になり、大いびきで眠りました。

すると、猟師がやってきて、オオカミのおなかから赤ずきんちゃんとおばあさんは助け出されました。

赤ずきんちゃんは、もう二度と寄り道はよそうと思いました。



白雪姫

あるところに、白雪姫という雪のように白く美しい王女がいました。しかし、母の王妃は自分が世界で一番美しいと信じています。魔法の鏡に「世界で一番美しいのは白雪姫、あなたの千倍も美しい」と言われると怒って、白雪姫を殺す命令を猟師に出しました。かわいそうに思った猟師は白雪姫を殺さずに、森に置き去りにしました。森に残された白雪姫は、７人の小人に出会い、一緒に暮らすことになりました。

しかし、白雪姫が生きていると知った王妃は、リンゴ売りに変装して森に行き、毒リンゴを白雪姫に食べさせました。毒リンゴをかじった白雪姫は死んでしまいます。

小人たちは悲しんで、白雪姫をガラスの棺に入れました。棺の中の白雪姫は白い肌のまま、まるで眠っているように横たわっています。森の動物たちもみな悲しんで泣きました。

ある日、王子が通りかかり、美しい白雪姫を見ると、引き取りたいと言いました。白雪姫の寝ている棺を召使いがかつぐと、その勢いで白雪姫ののどからかじった毒リンゴのかけらが飛び出しました。



すると、白雪姫は生きかえり、王子と結婚しました。